

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397600061		
法人名	医療法人フジタ		
事業所名	グループホーム「ポプラ」		
所在地	愛知県あま市七宝町伊福河原136番地		
自己評価作成日	令和2年11月23日	評価結果市町村受理日	令和3年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に楽しんでいただけるようレクリエーションの充実を図っています。(外出レク、外食レク、昼食レク、おやつレク、ボランティアレク)。特に外出・外食レクには力を入れ、独居にて外出できなかった初詣・花見、外食を定期的に行っています。また、地域の行事(小学校・子供会・地域認知症カフェ等)に積極的に参加し、交流を深めています。さらに、今年1月からは、認知症カフェを始め、地域の方に多数参加していただけるよう広報活動を行っております。その他、施設の行事にも地域の方に参加していただいております。

医療依存度の高い方も、看護師が常勤でいることにより積極的に受け入れご利用いただいております。

今年新型コロナウイルス感染対策の施設側の対応といたしましては外食・外出を控える事や、窓越しでの面会iPadを使いリモート面会で制限をしながらではありますが家族様との対応させて頂いております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市中種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和2年12月9日		

グループホームポプラは、医療法人を母体とする事業所で、小規模多機能型居宅介護サービスと併設の2ユニットの事業所である。併設施設と運営推進会議や委員会報告等を共に行い、また、併設施設の利用から入居に至る方もあり、常に連携が図られている。地域との関係継続を図り、コロナ禍であっても可能な限り散歩に出かけ、畑に通い、交流機会を作っている。畑では入居者から栽培のコツを教わり、共に収穫を楽しみ、また梅干しを一緒に作る等して季節感を味わっている。日常的に出来る家事を役割として参加いただき、レクリエーションを通して個々の思いの具現化に努め、理念の実践に繋げている。質の高い介護の提供を目指して、研修の充実や資格取得を支援し、職員全員が介護福祉士を取得した上、計画作成ができる人材に育成することを目標に力を注いでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である、和愛聚楽を基に、施設理念である「人を想い、人が輝き、人は満ちる」を目標にし施設運営を全職員で行っています。	事業所理念の下、日々輝きながら満足して暮らしていただけるよう、一人一人の思いを聴くことを大切にしている。そのために、コミュニケーションに重きを置き、レクリエーション等を活用して思いの反映に努めている。理念は事務所に掲示し、個別ファイル表紙にも貼付している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	子供会の行事、小学校での行事、認知症カフェ等に定期的に参加させていただき交流を図っています。	町内会に加入しおり、ホーム行事を回覧板に掲載し、地域に情報発信することもある。今年度より認知症カフェを始めているが、コロナ禍で地域との交流がほとんど中止になっている。散歩時や地域の方から借りている畑へ通い、近隣の方との挨拶機会を積極的に持ち、関係が途切れないよう活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所において認知症カフェを今年1月より毎月1回開催し、地域の多くの方に参加していただけるようにしていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、区長、民生委員3名、地区コミュニティと多くの地域関係者に参加していただき、施設の事などを理解していただいている。その際には、意見交換の時間もあり、地域の事など教えていただくことも多くある	運営推進会議は2ヶ月に1度、1回を除いた5回は、書面にて構成員(家族、コミュニティ推進協議会、民生委員、区長、地域包括支援センター、あま市職員)へホームの運営状況を報告し、参加者から意見や助言を受け、ホームの運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	あま市高齢福祉課や社協の包括支援センターの方と特に積極的に連絡を取り、関係性を築くようにしている。	市の担当者とは折に触れて電話で相談や連絡をし、報告や届け出等で月に一度は出向いている。市主催の実地指導結果の研修や腰痛予防研修、サービス事業者研修会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう、勉強会なども行い、どのように考えていけば身体拘束をしないことができるのかをスタッフ一同考えている	毎月の委員会報告会の中で身体拘束廃止委員会を開催している。月1度のフロア勉強会内で年2回は研修を実施しており、主にマニュアルを用いて事例検討している。また、日々の何気ない支援について、身体拘束に繋がる行為でないか職員へ気付きを促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についても、勉強会を行い、職員に周知し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や介護支援専門員が勉強会に参加することはあったが、それを勉強会として行うことが出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書、利用契約書をしっかりと説明し、重要事項説明書の同意書や個人情報の使用同意書なども説明し、サインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、意見、要望等を出してもらい、運営に反映させるようにしている。また、運営推進会議にご家族様代表として参加していただき、意見を出してもらうようにしている。	家族へは面会時や電話で近況報告を行い、その際に意見や要望を聞いている。月に1度のおたよりでは、ホーム全体の報告と共に個別で本人の様子を伝えている。意見箱を入りに設置し、得た意見を運営に反映させサービスの質の向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回、連絡会議を行い、代表や事務長、管理者と、介護スタッフが話す機会を作り、対応している。	月に1度のフロア会議や小ミーティングの際に職員からの声を聞く機会がある。また日常的にノートも活用している。職員からは活発に意見提案があり、この度の新型コロナウイルス対策についても皆で検討し運営への反映がなされている。年2回、個人面談で話しが出来る機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤職員対し年に2回の賞与支給時に勤務査定を行い、評価を給与に反映させている。その他にも、キャリアアップ制度を使用し、法人の費用補助により実務者研修を受講できるようにしている。外部勉強会などにも勤務として参加できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップのため、積極的に外部研修を受講させている。新人研修がまだできていないので、研修プログラムを作成し、行っていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の責任者などとも話す機会を作り、相談などもできるよう交流をしている。そしていい意見や話を実践できるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様がお答えできることに関しては本人様にお聞きし、その他は家族様に本人の状態などを確認し対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様に聞いたうえで、家族様と話し、状態などを確認し、対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様と話し、必要なサービスを確認し、同意を得ながら対応を決めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	他利用者との間に立ち、本人様と、他利用者様がコミュニケーションが取りやすいよう配慮し対応している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば家族様と連絡を取り、情報の共有をできる限り行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りなどに参加しているも、限られた利用者様となっている為、多くの利用者様がそのようになれるよう努力していきたい	例年であれば家族以外に友人の訪問も自由に受け入れられている。馴染みの美容院等へ個別で出かけたが、馴染みの飲食店へ皆で出かけていたが、今年度のコロナ禍においては、それら受け入れや活動を自粛している。しかし緩和したり可能な方法を模索して、状況に合わせ柔軟に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係性を把握しながら、スタッフが間に立ったりと、関りができるように配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望される方には、退所後なども、家族様と連絡をとり、現状どうなったのかを確認することがある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を最優先とし、家族様の意見も尊重しながら検討している	入居時に、入居者本人や家族に思いや意向を確認している。意志の表出が難しい方の場合は、家族から情報を得たり、日々の様子や会話からヒントを得て職員間で検討している。意向が本人と家族と異なる場合でも、汲み取った本人の思いを伝えながら両者を尊重し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集の際に、IADLも確認し、現状を把握しつつ、以前の事も確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を確認しているのと同時に生活機能向上のため、生活リハビリを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の施設での状態を家族様等にもお話しし、関係者全員で話すようにしている	家族からは面会時に意見や要望を聞き取り、職員は月1回の担当者会議にて情報交換を行っている。日頃のケアでの気づきを職員が個別ノートに記入し、それらの情報を収集してアセスメントに活用している。基本3ヶ月に1度、モニタリングと計画の見直しをしている。本人の思いをプランに上げ支援に反映させることを職員間で共有し、現状に即したプラン立案の大切さを確認し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況を看護・介護記録に詳しく記入し、スタッフ間で情報共有し、検討すべきところを検討している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に1度は全利用者様についてフロアスタッフほぼ、全員で話す機会を作り、その他にも話し合い対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のなかに入っていけるように地域との連携を取れるよう、区長や民生委員、地区コミュニティ協議会、小学校職員などと話し努力している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族から希望がある方は自宅にいたときにかかっていた主治医のまま継続している	協力医の往診が2週間に1回ある。これまでのかかりつけ医や他科への受診は基本家族が対応しているが、家族が難しい場合は職員が受診支援を行っている。職員である看護師が日常の健康管理や医師との連携、薬の管理を行っている。協力医、看護職員ともに24時間オンコール対応である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職が一緒に働き情報共有し、必要があれば病院受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、病院のMSWと密に連絡を取るとともに適宜、病院へ面会し本人の状態も確認している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所が決まった時点で、今後の事についても話し、状態を確認しながら家族にもお話ししている。	入居時に方針について説明し、同意を得ている。また、入居者の状態の変化に応じて、意向の確認をし、協力医、看護師、介護職員で連携を図りターミナルケアを行っている。酸素、喀痰、胃ろう等、その時々入居者に対応できるよう、研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフに、応急処置の対応などの用紙を配り周知し、その他に、フロア会議時に年に1度は説明している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難場所は、年2回の消防訓練時と一緒にしている。地域との連携についても区長などと話し合いをしている	今年度は津波想定で2階への避難をエレベーター使用出来ない想定でタイムを計測し全員参加で行った。備蓄として、水食糧3日分の備えがある。現在、補助金を利用し、発電機5台の導入が予定されている。また、あま市と福祉避難所の協定を終結している。	夜間想定避難訓練の実施と地域の協力体制の構築が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全利用者に対して、利用者様の今まで生きてこられた人生の背景をできる限り把握しようと努力し、声掛け等の対応に気を付けている	排泄介助時の声掛けや、洗濯物の中で下着については本人が畳む事が出来るよう各部屋に持って行く等、羞恥心やプライバシーに配慮している。入室時はノックをし、不在時の際は、本人に了承を得て入室するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらから「～でいいします」などの決定のように伝えず、「どうされますか？」等、決定していただけるように配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、利用者様の意向に沿って行っており、その他に家族が出来ればこのように過ごしてもらいたいという希望も配慮しながら行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己にて行える方は物を準備し自己にて行ってもらう、その他の方は、鏡を見てもらいながら整容介助を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のおかずは、盛り付けのみの為、行っていない。米ときや昼食レク、おやつレクなどの時は包丁を使っていただくなど、気を付けながら行っている	ご飯、みそ汁の調理、おかずの盛り付けは、食事担当の職員を配置している。週1回程おやつレクや昼食レクを実施し、入居者参加で手作りを楽しんだり、希望により寿司やうなぎ定食をテイクアウトしている。入居者の経験を活かして梅干しを漬けたり、正月の煮豆作りを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人、食事量が毎日変わらないよう配慮している。水分も定時に必ず提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人にあった口腔ケアのものを使用し行っている。できる限り自己にて行っていただける様に配慮をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人様の状態を見ながら、リハビリパンツやオムツなどを選定し、適宜検討しながら行っている	トイレでの排泄を基本とし、退院してきたばかりで歩行困難の為車イスを使用しているも、本人の様子を確認しながら移乗し、トイレでの立ち上がりを2人介助で行う等、段階を経て自立に繋がる支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護士・看護師と話し合い、検討しながら行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活習慣を整えるため、曜日はある程度決めてはいるが、本人希望で入りたくないなどあれば、別日に変更したり時間を変えたり配慮をしている	週3回の入浴を実施している。入浴を楽しめるような季節湯の他、温度、水位、入浴剤を個人の好みに合わせて用意している。入浴を嫌がる方には時間を変え、声掛けの人を変えて対応している。また、入浴時には一対一でゆっくり入居者と対話する事が出来る時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望時に休めるように準備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が基本的に把握し、介護士に伝えている。現在使用している薬に関しては、薬剤情報を確認できるところに置き、周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り、利用者様の状況を把握し、対応できるように配慮している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿って外出は、現在できる時とできない時があるが、家族と連絡を取り後日外出されるなどされる	以前は天気の良い日は散歩や近くの喫茶店へモーニングに出掛けていたが、コロナ禍の現在は、1日に3人程度で、木曾三川公園や富田公園へドライブに出掛け気分転換を図っている。また、畑を借りており、季節の野菜を栽培しているため、収穫の時期には入居者と共に畑へ出向いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、紛失の観点から、自己にて所持している方はほとんど見られない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を出したりもらったりできるように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いやすいように配慮をしているが、できる限りシンプルな状態にしてある	フロアの入口にはその日の勤務の職員の名前入りの写真を掲示し、来訪者や入居者に分かりやすいよう工夫している。壁には季節の貼り絵を飾り、季節感を演出している。また、コロナの感染対策として、玄関入口にアルコール消毒と体温計を置き来訪者からの感染予防に努めている。また、フロア内は暖房を入れながら換気を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにて、自己の希望に合わせて、提供している。他利用者様との会話もうまくできるようスタッフが間に入るなどの配慮をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から自宅で使用していたものを、持ってきていただいたりしている	ベッド、タンス、カーテン、エアコンは備え付けである。そのほかの家具はそれぞれ使い慣れたものを配置している。家族の写真の他、習慣に合わせた物を身近に置き、自分らしい部屋作りに配慮している。また、ベッドは好みや状態に合わせ、低床、超低床のベッドも備えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人、利用者様に合わせて援助を行っており、できることを妨げないように配慮している		